

集団移転で全世帯が地区外に移転した津波被災地で、かつての暮らしの要素を取り入れながら、インクルーシブ公園やコミュニティファームを中心とした多世代交流拠点を整備

- 東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受け、全世帯が地区外に集団移転した仙台市荒浜地区において、集団移転跡地を代表提案者が借用し、震災前の荒浜の街並みや暮らしの要素を取り入れつつ、子育て世代の利用を中心とした多世代交流施設として、カフェ、コワーキングスペース、シェアキッチン、障害児も一緒に遊べるインクルーシブ公園を含む広場、コミュニティファーム等の施設を整備する。
 - 地域交流拠点としての運用検証やイベント開催による情報発信も併せて実施。
- ※ 事業育成型（令和2年度選定）の事業で、事業コンソーシアムの立ち上げと計画検討、旧住民や地域活動団体とのネットワーク形成、事例視察等を実施。

事業概要

代表提案者 今野不動産株式会社

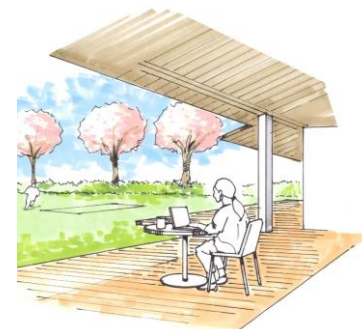
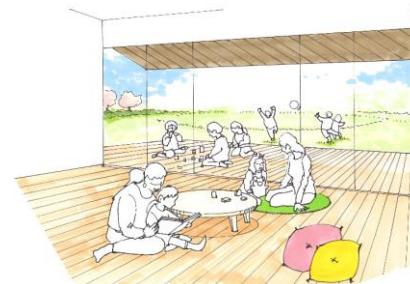
共同提案者 —

事業実施場所 宮城県仙台市若林区

事業実施内容 施設の整備(2棟、1~2階建て、シェアキッチン、カフェ、コワーキングスペース、託児機能、多機能トイレ、インクルーシブ公園、イベントスペースなど)、地域交流拠点としての利活用や運用検証、設計プロセスにおける障害者等との意見交換、設計プロセスにおける市民・企業・団体の参加、利用者の安全性向上を目指したICT活用、ワーケーションコンテンツの開発、オープニングイベント等の開催、ハンディキャップワークショップの開催 等

事業実施期間 令和4年1月~令和6年3月

施設の整備イメージ



評価委員会での評価内容

- 津波被災地における地域支援創出の試みとして注目に値する提案である。
- 過年度実施した検討・準備に基づいて計画され、震災後から継続的に市民運動を展開しているチームとも連携した実効性の高い取り組みであり、地域のネットワーク形成の効果も期待される。
- よりモデル性に富んだ事業内容とするため、何年経っても使い続けてもらえる持続可能な施設運営に向けた経済的基盤の確立が望まれる。